

平成28(2016)年「正覚寺報」4月号

ご案内

お聴聞と人生を語る会4月10日(日)20時～

二月、三月での試行を経て、仏教壮年会恒例の「御法話会(お聴聞の会)」は、発展的に首記のように改称することに致しました。

前半は、お聴聞、後半は、今悩みの課題について吐露し如来様のお慈悲を仰ぐものです

仏教婦人会例会 4月16日(土)19時半～

お聴聞の基本となるのが例会です。互いにお声を掛け合って戴き賑やかにご参り下さい。

小松仏教会花祭り 4月29日(金)10時～

会所 南小松西方寺様

恒例の小松仏教会主催の花祭りです。お子たちには是非ご縁にお会い戴きたくお家の皆様をお願い申し上げます。

有り難いとはいかなることか

「浄土真宗の救いのよろこび」は、浄土真宗のお法(みのり)を易しい現代語で表現したものです。ご本山の常例布教では、そのお心をお伝えすることが求められています。

「如来の大悲に生かされて 御恩報謝のよろこびに 南無阿彌陀佛を称えつつ 眞実(まこと)の道をあゆみます」は、その第三聯です。

ところが、実業界を定年退職した当年七十代の友人がこの言葉を目にして「御恩報謝」というのが分からないという。浄土真宗のご家庭で篤信の母親に育てられた友人がそう言うのですよ。

そうすると「御恩、恩徳」を感じる原体験からご案内しなければなりません。

三月十六日のこと、南米からお便りが参りました。 Rondree ナ本願寺第65周年記念行事の写真等だったのです。本堂のお内陣には、見覚えのある真新しい打敷と水引が掛けられていました。

思い起こしました。三年前に南米開教区支援に赴いたとき、同寺の主管(正覚寺の新発意)から記

念行事に向けて所望されたものでした。

これを新品で購入すれば、途方もないお金が必要です。当院にはその余裕の原資もない。

坊守が申しました。「時間はあるのだから、私がぼちぼち手縫いをする」と。それから…

坊守自らデザインを手がけ、必要な布地や端切れを買い集め、二年近く掛けて漸くにして仕上がった打敷と水引でした。それらは、昨年八月、日本での仏青の集いに参画した同寺の青年に託して送り届けられたことでありました。

その写真を見たとき、胸にこみ上げるものを禁じ得ませんでした。打敷、水引を通して、同寺の御門徒様方の慶びを目の辺りにしたからです。

打敷・水引に託されたお浄土の荘厳は、紛れもなく南無阿彌陀佛の御名となって喚び続けていらっしゃるお喚び声だったからでありました。

このことによって、不肖は初めて仏説観無量寿経でお釈迦様が韋提希の為に定禅観法をお手立て下さったお心を垣間見た思いでありました。

その最初に来るのが「日想観」と云って、入り日の姿を目に焼き付け、目を閉じてもありありとその姿が心の中で見えるようになったとき、それはお浄土の姿に他ならない、と。

私どもの場合は、 Rondree ナ本願寺のお内陣に荘厳された見覚えのある打敷と水引の写真でありました。その姿は、目を見開いても目を閉じてもありありと心の中に留まります。そのとき、その姿はお浄土の姿に他ならないと。

このようにしてこの目で見た最初の印象を心の中に取り入れることを「取相(しゅそう)」といい、やがて、その具体的な姿の向こうに、これはお浄土の荘厳であると如来様の智慧(光明)のお心をお知らせに与ることを「似相(じそう)」と聞かせて戴いております。その本質は、お名号となって喚び続けていて下さる如来様そのお方のお喚び声だったのであります。合掌。